

第6章 事業推進に向けた取り組み

1 保存整備に関する取り組み

竹田城跡の保護を確実に果たし、次世代にするためには、史跡指定地の整備だけでなく古城山全体を含めた様々な取り組みが必要となる。そのために必要となる取り組みを以下に示す。

保存整備に関わる取り組み
<p>■城跡の保護</p> <ul style="list-style-type: none">・主郭部の遺構・遺物の保護を進める。・堅堀、小曲輪群などの山腹の城跡関連遺構に関する調査研究を推進するとともに、その保護・整備を行う。
<p>■調査研究</p> <ul style="list-style-type: none">・史跡の追加指定に向けた調査を進める。・必要な石垣の測量、図化を推進する。・文献・史料・古写真などの収拾と調査・研究を推進する。・古城山の植生・地質などの調査・研究を推進する。
<p>■日常管理</p> <ul style="list-style-type: none">・早期に問題点を発見することを目的として定期的な日常点検を継続する。・石垣の変位観測は、必要に応じて観測箇所を増やし、必要な情報の蓄積に務める。・古城山全体の石垣について、石垣カルテの更新作業を進める。
<p>■施設整備</p> <ul style="list-style-type: none">・史跡の適切な管理のため、見学通路やサイン施設の整備を進める。・適切な見学環境を整備するため、管理施設、便益施設、案内施設、休憩施設などの整備を進め、特性に合わせた点検項目を設定し、定期的な点検、清掃、補修を行う。
<p>■環境整備</p> <ul style="list-style-type: none">・文化財の保護や維持管理の面から史跡の景観や遺構に悪影響を及ぼす植物は除草、剪定、伐採を行い、適切な植生管理を進める。・植栽は原則として認めないが、史跡の保護に有効である場合はこの限りでない。・史跡と景観の調和を目指し、適切な植生の管理を進める。・遺構や植生の保護のため、獣類の侵入を防ぐ柵の設置を関係部局と協議検討する。
<p>■追加指定</p> <ul style="list-style-type: none">・山麓などに分布している城跡関連遺構などを適切に保存活用するため、現在の史跡指定地を拡大し、古城山全体の追加指定を目指す。
<p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none">・古城山全体の城郭関連遺構に関する調査を進めるとともに、城郭関連遺構の研究と価値付けを行い、史跡の追加指定に向けた取り組みを進める。・古城山とその周辺の地籍調査を進め、関係権利者との協議などの将来的な公有地化に向けた取り組みを進める。

2 公開活用に関する取り組み

竹田城跡を、地域の誇りと愛情を寄せるにふさわしい史跡とするには、城跡を適切に公開・活用することで、多くの市民及び来訪者などの理解と関心を高め、永続的な保存に向けての協力を得ることが必要である。そのために必要となる取り組みを以下に示す。

公開活用に関わる取り組み

■情報発信

- ・調査・整備成果の情報発信を積極的に行う。
- ・イベント情報などの情報発信を積極的に行う。

■施設管理

- ・竹田城跡に関するガイダンス施設の整備と活用を進める。
- ・情報館「天空の城」、山城の郷資料館などの既存のガイダンス施設の周知と展示内容の情報更新を図り、更なる活用を促進する。
- ・パンフレットや案内冊子などの充実を図る。
- ・史跡内だけでなく周辺地域を含めた総合的なサイン整備を進める。

■環境整備

- ・史跡を次世代へ継承することを見越した、長期的な樹木管理の推進を図る。
- ・城跡の定期的な点検、清掃、通路などの補修を実施する。
- ・必要に応じてスタッフによる定期巡回や追加の城内スタッフの配置を行う。

■普及啓発

- ・ヘリテージ講座、親子見学会、お城祭りや秋祭りなどの催しの継続と発展を図り、竹田城跡に関する普及啓発活動を推進する。
- ・市内の小学校などの教育機関による、学習活動での史跡利用を促進するとともに、出前講座などの積極的な開催により、次代を担う人材の育成を図る。
- ・生涯学習の場として城跡を積極的に利用する。

■新たな取り組み

- ・竹田城跡の活用や新たな魅力の発見を目的として、期間や人数などの条件をつけての立ち入り制限区域の特別公開などを検討する。

3 事業推進に向けた体制整備

史跡竹田城跡の管理運営は朝来市が管理団体となり、文化財保護及び所管施設の維持管理を行っている。

今後、竹田城跡とその構成要素の価値を次代に継承するためには、竹田城跡を適切に「保存」し「活用」していくことが必要である。そのためには、竹田城跡を取り巻く施設、環境についても適正な維持、活用をしていくことが重要であり、行政や関係団体などと地域住民が一体となった包括的な管理、運営を進めることが必要である。

また、文化財のみならず周辺地域の環境や価値を維持していくために、地域住民、関係団体と行政が支援・連携し、地域ぐるみで維持と活用を促進する必要がある。

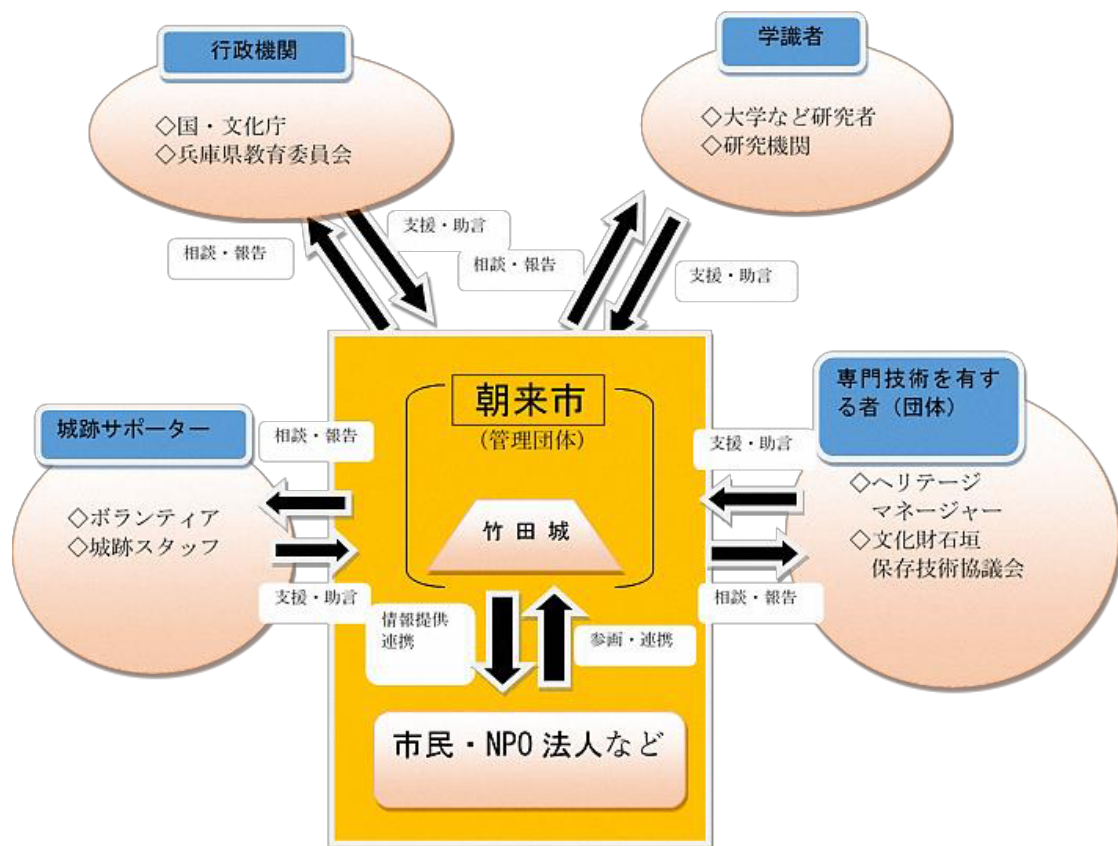


図 6-1 史跡竹田城跡を適切に「保存」し「活用」していくための体制図